

# お知らせ

## ◆遠藤周作の新作・近刊3冊

河出書房新社

『遠藤周作初期短篇集』

秋のカテドラル』

『遠藤周作初期中篇』

『薔薇色の門 誘惑』

『稔と仔犬 青いお城』

遠藤周作初期童話』

2022年2月25日刊行

定価1,870円(税込)

芥川賞受賞直後の、若き日に発表された幻の短篇、中篇、童話の数々を初単行本化。刊行前より話題の「稔と仔犬」は『沈黙』の原点ともいえる衝撃作。解題・解説は今井真理。

お問合せは、河出書房新社編集部、太田美穂まで。 m.ota@kawade.co.jp

(電話) 03・34404・8611

(FAX) 03・34404・1377

朝日カルチャーセンター新宿

講座名「文章で表現する技術」

※オンラインでの参加も可。

講師 加藤宗哉

日時 全3回(4~6月)

4月8日(金) / 5月13日(金)

6月10日(金)

いずれも13時~14時30分

会場 朝日カルチャーセンター新宿

本報1面でも紹介の遠藤戯曲「善人たち」

「戯曲 わたしが棄てた・女」

「切支丹大名・小西行長」

戯曲版『鉄の首枷』の調査・発表にもかかわらず

講師が、発見の経緯、遠藤戯曲の新たな魅力の拡がり、小説とは異なる独特の戯曲作法について報告します。

受講料 会員10,395円

一般13,695円

申込先 朝日カルチャーセンター新宿

03・33344・1945

東京都新宿区西新宿2の6の1 新宿住友ビル10階。最寄り駅は都営大江戸線「都庁前」駅、もしくはJR「新宿」駅西口。

◆加賀乙彦長篇小説全集 刊行中!

作品社(全18巻)

刊行開始 2021年5月

最終配本 2024年8月予定

定価 各巻4,180円(税込)

※当クラブ会長で、今年92歳の加賀乙彦会長の「長篇小説全集」が好評刊行中です。既刊は(刊行順に)、「錨のない船」(第6巻)、「フランドルの冬」(第1巻)、「荒地を旅する者たち」(第2巻)、「帰らざる夏」(第3巻)。

今後の刊行予定は、「宣告上・下」

「湿原上・下」 「高山右近・ザビエル」とその弟子・殉教者「永遠の都1」

4 「雲の都1」5。最終配本は2024年11月の予定です。

問合せ先 作品社 102-0072

千代田区飯田橋2の7の4

(電話) 03・3262・9753

◆今年の「遠藤文学原点の旅」は、残念ながら中止します。

新型コロナウイルス感染症拡大のため延期・中止をつづけている「遠藤文学原点の旅」は、今年も現在のところ計画が立てられずにいます。

ただ、「原点の旅」のテーマに沿って行われてきた「文学セミナー」だけは、オンライン形式で行うべく、ただいま計画中です。詳細は次号の本欄でお知らせいたします。

◆遠藤周作の本 早くも単行本化!

「善人たち」(戯曲)

新潮社 3月28日発売

定価1,870円(税込)

昨年暮れに発見され、「小説新潮」2月号、「波」2・3月号、「新潮」3月号に掲載された未発表戯曲三篇(本報1面に詳述記事)が早くも単行本化されます。表題作のほか、「戯曲 わたしが棄てた・女」「切支丹大名・小西行長」評伝『鉄の首枷』戯曲版」を収録。これまで遠藤戯曲の総数は「遠藤周作文学全集」に収録の6篇と、没後に発見された1篇の計7篇とされてきましたが、今回の発見により遠藤文学の全体像も大きく変えました。とくに「善人たち」はこれまでの遠藤文学になかった設定と舞台で、注目される作品です。

(電話) 03・3262・9753

## ◆「会報」の原稿募集

会員の皆さんの原稿を募集します。

900字(半ページ分)あるいは1800字(1ページ分)。遠藤周作の人と作品について、あるいは遠藤文学との関わりなど何でも結構です。

なお、原稿は必ず下記「周作クラブ」宛てに郵送してください。掲載の際にはご連絡差しあげます。

## ◆「周作クラブ」会員募集

「周作クラブ」では会員を募集しています。

遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという方々も大歓迎です。

年会費は3,000円。入会金はありません。年4回発行の「会報」が送られるほか、会が主催する「新年会」「周作忌」「文学セミナー」や遠藤作品の足跡を訪ねる「遠藤文学・原点の旅」、そして「オンライン懇親会」にも参加できます。

下記「周作クラブ」まで、ハガキかEメールでお申込みください。折り返しご案内の資料と会費の振込用紙をお送りします。

なお、当クラブでは昨年より財政健全化のための「協力金」をお願いしています。一口1,000円で、何口でも結構です。ご協力いただければ幸いです。

## ◆編集後記◆

▼コロナ禍となつて2年、周作クラブの活動も延期や中止が続いています。その中で、リモートを使うという試みが定着してきました。新しいもの好きだった遠藤先生、ボクもやってみるか・・・という声が増えてきませんか。(佳)

▼昨年から遠藤周作未刊本が続々と刊行され嬉しいですね。新年会で『稔と仔犬 青いお城』『善人たち』を巡るエピソードに接し、こちらも楽しみで仕方ありません。『善人たち』の発売日は私の誕生日。先生からのプレゼントと勝手に喜んでいきます。(優)

▼オンライン新年会で今井さんから伺った話。新聞の切り抜きからは、どこの、いつの新聞かなどは読み取れず、その裏を見て、キリスト教関係の新聞だと目星を付け、そこから「稔と仔犬」全掲載分に辿り着いたという。芸芸員というのは時に探偵ばりの仕事をするのだとつくづく感心した次第。

▼立春を過ぎてから寒さが厳しくなってきました。風邪をひいても簡単には医者に行かない昨今、皆様ご自愛ください。(亀)

## 「周作クラブ」第86号

2022年2月発行

■発行人 加賀 乙彦

■編集人 高橋千劍破

■副編集人 亀岡 園子

■編集部 一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、清水優子

■発行所 東京都世田谷区上馬4-29-17

加藤宗哉事務所内「周作クラブ」

Eメール Shusaku\_club@yahoo.co.jp